

市民の皆様へ

2030年の稲城に向けたご提案を受け付けています！

稲城市では2030年の稲城に向けて、長期総合計画を策定します。  
 あなたの考える2030年の稲城の将来像について、ご提案ください。  
 ご提案いただいた内容は、長期総合計画を策定する際、市民の皆様からのご意見として参考とさせていただきます。

ご提案はこちらから  
[https://www.city.inagi.tokyo.jp/cgi-bin/form\\_enq/formmail.cgi?d=chouki](https://www.city.inagi.tokyo.jp/cgi-bin/form_enq/formmail.cgi?d=chouki)



個別の返答はいたしませんので、あらかじめご了承ください。

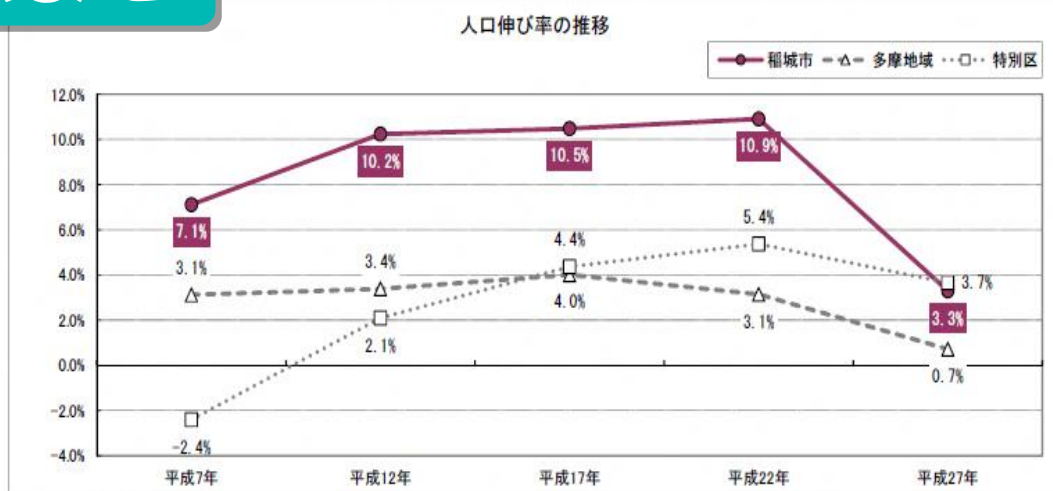


©K.Okawara・Jet Inoue

稲城市ちょっとメモ

本市の人口は増加しています。平成22年までは高い伸び率でしたが、平成27年には鈍化しています。

多摩地域と比べると高い伸び率ですが、特別区とは同程度となっています。



(出典：多摩データブック)

これからの開催予定

第9回 平成31年2月15日(金)

時間：19:00から

※概ね2時間程度を予定しています。

会場：地域振興プラザ4階 大会議室

・提言書の素案について確認し、討議します。



稲城市

©K.Okawara・Jet Inoue

2030年の稲城を描く

発行 稲城市  
 編集 企画部 企画政策課 長期総合計画担当  
 〒206-8601 稲城市東長沼2111  
 ☎042-378-2111(代表) 内線532  
 e-mail chou\_kei5@city.inagi.lg.jp

2030年の稲城を描く

No.8

市民会議 1月25日開催

第8回 市民会議を開催しました

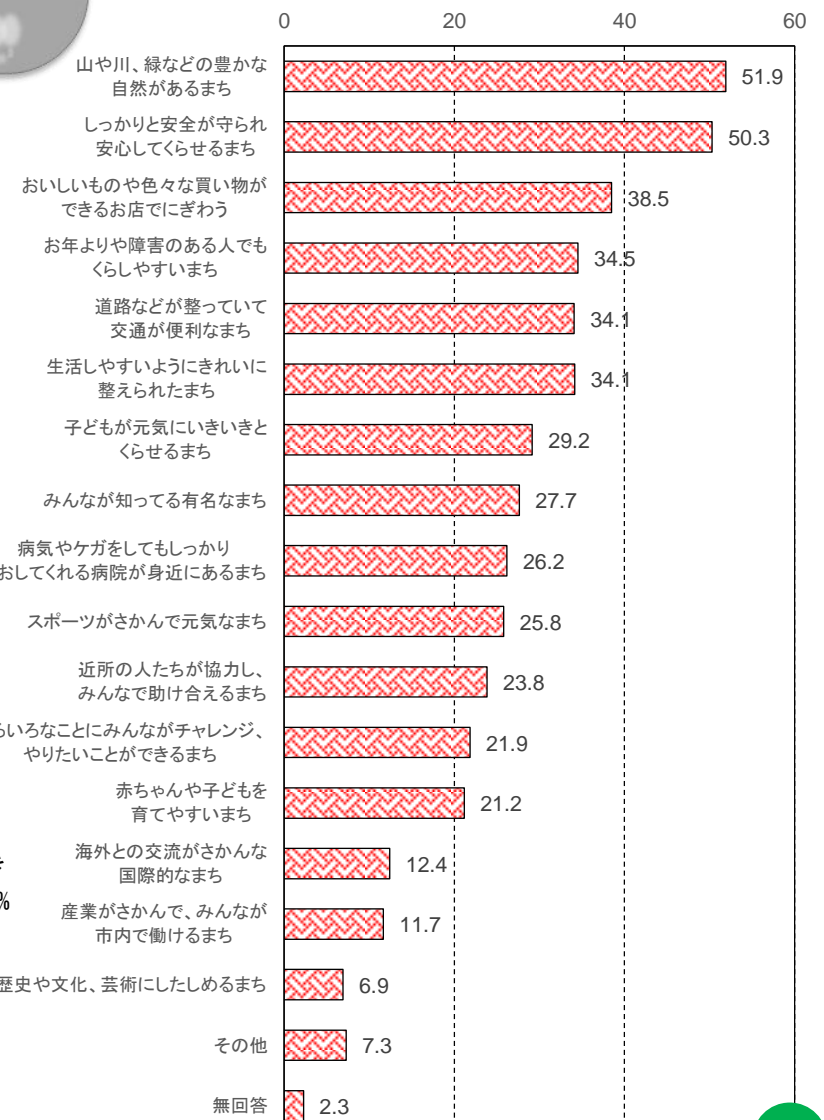
1月25日、地域振興プラザにおいて「2030年の稲城を描く市民会議」第8回を開催しました。3つのグループに分かれ、小中学生へのアンケート結果から提言へ反映すべき子ども達の意見について討議しました。また、今まで協議してきた中で、12のテーマについて、共通する視点やキーワードは何か、こういった部分を強調してまとめていくのかを話し合いました。

みんなの稲城2030年アンケート

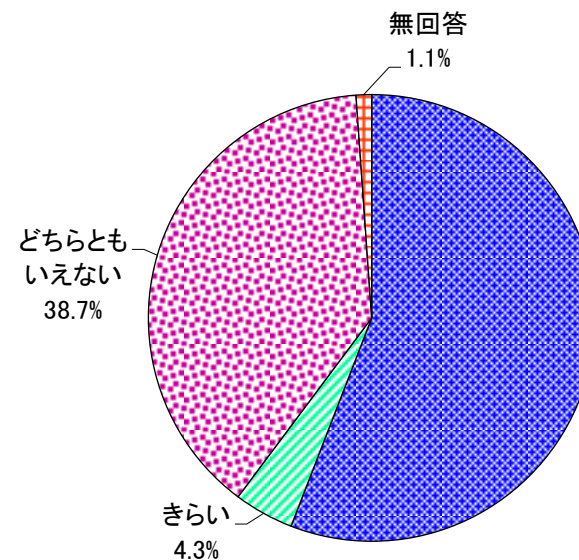
市立小学校の5・6年生、市立中学校の全学年にアンケートを実施しました。

2030年の稲城を描く市民会議の市長への提言の中に、子ども達の意見を取り入れていきます。

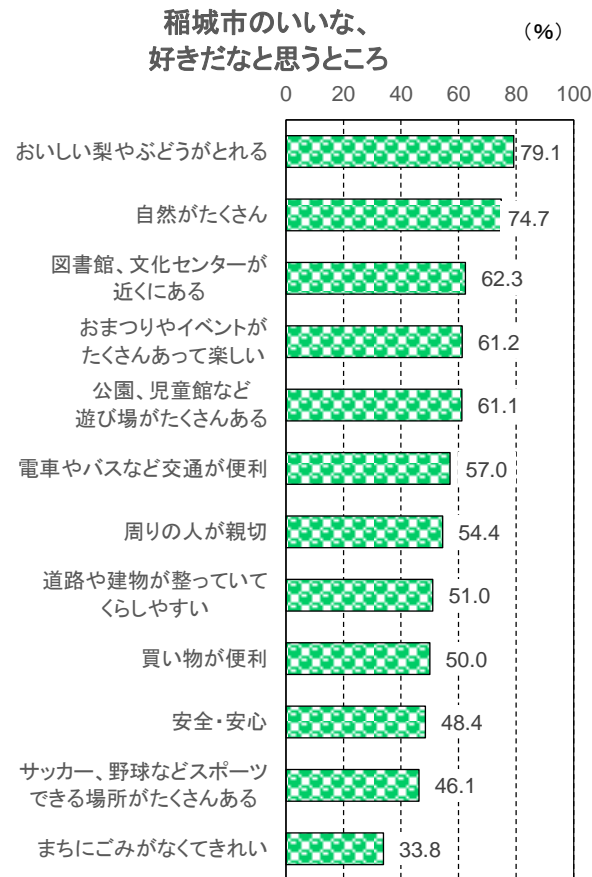
2030年の稲城市がどんな「まち」だったらいいと思いますか？ (%)



あなたは「自分のまち」として、稲城市が好きですか？



『小中学生アンケート』結果について討議しました！



子ども達の稲城市への全般的な評価について～

- 子ども達は全体的に稲城市への「良い評価」を抱いており、大人とあまり変わらない。
- 「周りの人が親切」といったコミュニティへの好評価もあり、それは「田舎らしさ」からつながる部分もある。
- 自然が良く残っていることへの好評価を含め「今を続ける努力が大切」。

稲城市の良いところについて～

- 「おいしい梨やぶどうがとれること」は高評価で、「梨」「なしのすけ」の自由記入も多かった。「稲城＝梨」が定着している感があり、特色や自慢できるものがあることが大事。
- 「自然がたくさん」への高い評価や、2030年に向けて自然を残して欲しいとの意見が多く、自然が大事だと思っているのが新鮮であった。自然を残すことを、まちの姿勢として努力していく必要がある。
- 「自然」に対する好評価が「田舎すぎず都会すぎずちょうどいい」や「都会と田舎のバランスが良い」につながっており、子どもも大人も同様。
- 「いいな、好きだな」の「自然が多い」と「都会と田舎のバランスが良い」は重要なポイントであると思う。

「買い物・お店」について～

- 子ども達は、より近くの買い物等の場を欲していることがわかる。
- 子供たちは「お金がかからず安心して遊べる場所」「集まれる場所」を求めているのでは。これは、世代を超えた稲城市民の共通する考えだと思う。
- 市民会議であまり触れてこなかった「商業」については、テーマとして考えるべきでは。

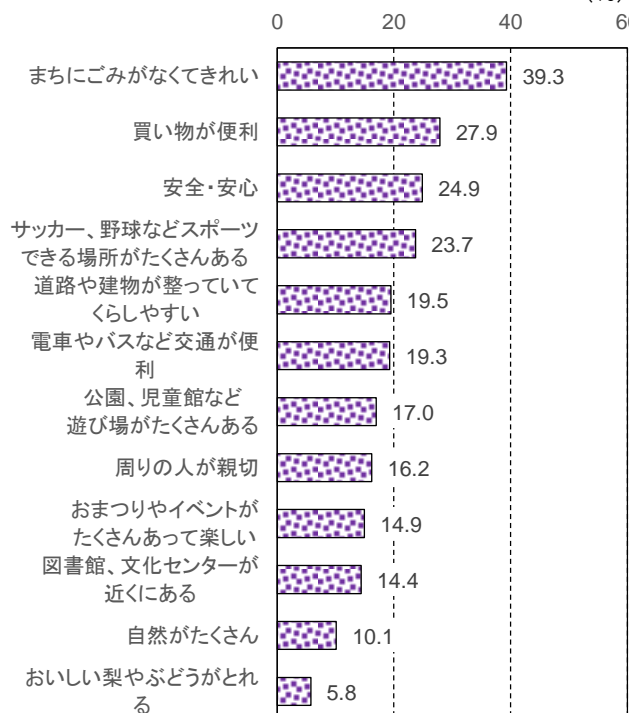
「ごみ」について～

- 「まちにごみがなくてきれい」への否定評価が高く、自由記入でも「ごみ」が多く注目すべき。
- 大人目線では、稲城は他と比べきれいと感じる。子ども達は比較対象を持っていないので、そう感じるのでは。
- 子ども達は公園などで遊ぶので、ごみが目立つのでは。また、ごみ拾い活動が進んでいるからこそ、ごみがいっぱいあるという感覚を持っている可能性もある。

「安心・安全」について～

- 2030年の稲城市で「自然があるまち」に次いで「安心・安全なまち」への期待が高く、自由記入での「街灯」「暗い」「不審者」などの否定的意見も多く注目される。
- 街を駆け回っている子どもと、大人の感じ方が異なり、「子ども視点」に立ち考えて行く必要がある。

稲城市のそうではないので、いやだなと思うところ (%)



12のテーマを振り返り、提言へのまとめを討議しました！

Aグループ

- テーマ別討議の12テーマを振り返り、提言をまとめる際のキーワードなどについて、意見を出し合いました。
- 提言に盛り込むべき項目・キーワードとして、「世代間交流の場づくり」、「みどり・自然」、「営みとしての農業」、「里山（駅から5分で）」、「ほどよく田舎・ほどよく都会」、「安心・安全」、「情報発信」、「子育て」、「人や団体をつなぐコーディネート」、「市民主導」があげられました。
- その中でも、12テーマとの関連では、「世代間交流の場づくり」、「みどり・自然」、「営みとしての農業」、「ほどよく田舎・ほどよく都会」、「子育て」が3つ以上のテーマに共通するキーワードとなっていることを確認しました。



Bグループ

- テーマ別討議を12のテーマごとに確認し、不足点やキーワード、テーマ間で内容が重複する場合の対応について話し合いました。
- 「人がつながり自らやっちゃうまち」キーワード：チャレンジ。提案：市の制度が知られていないので、周知の強化、そのアフターケアも必要。
- 「高齢者が生き生きと暮らせるまち」キーワード：セミプロ人材・コーディネーター、ボランティアポイント制。
- 「梨」キーワード：イメージアップ、ブランド化。提案：広報、PRの強化。
- 「仕事も生活も稲城で」キーワード：コミュニティビジネス。提案：多世代の交流。
- 「緑」キーワード：観光づくり、PR。提案：「里山」は「人が使える緑」「身近な緑」として定義づける。これ以上減らさないという提案をする。
- 「ほどよく居心地の良いまち」キーワード：コンパクトシティ、クラウドファンディング。
- 「誰もが活躍し輝けるまち」キーワード：コーディネーターズ、使用制限が緩やかな場（施設）の確保。
- 「稲城の良さをもっと発信」キーワード：既存資源の活用。提案：「稲城の良さを「どのように」発信するか…」において、「どのように」の部分に力点を置いた提言とする。
- 「子育てしやすいまち」キーワード：駒沢女子大学・短期大学（保育科）との連携。提案：高齢者との連携、専門家を置く、小中学生の放課後の居場所づくり。
- 「梨」と「農業をたのしむまち」の統合。「誰もがずっと住んでいたいまち」「ほどよく居心地の良いまち」「安心して快適に暮らせるまち」の統合。



Cグループ

- 小中学生アンケートの全般的な肯定的評価等も踏まえて、継続・より良くしていくために、12テーマの一つ一つを、着実に取り組んでいく必要があり、加えて子どもから多くの期待が寄せられた商業機能は「コミュニティ商店街」「ふれあい商店街」として盛り込むことで意見がまとまりました。
- 12テーマに共通・通低するキーワードとして「田舎過ぎず、都会過ぎず」や「コミュニティづくり」と同レベルの3つ目の方向性について話し合いました。これからのまちづくりでは、借金、お金を掛けることなく、市民主導のまちづくりを促進していくために、一人一人の市民意識の改革、市民の活躍、住民主体のまちづくりへの行政のサポート等が大切であり、以下の考え方を打ち出しては、との結論となりました。
- シビックプライド／市民による元気なまちづくり  
「おせっかい運動の連鎖」～共助、つながりを深めて行く市民同士の働きかけ。  
「シビックエコノミー」～市民の活動の連鎖、経済だけではなく様々な事、物、情報が循環する元気なまち。

